

## 外部指導者から見た 中学校水泳部の実態

鳴門教育大学大学院  
金澤 健司

## 水泳の外部指導者

- 徳島県の外部指導者は増加傾向にある。しかし、水泳の外部指導者は昨年の調査によると0人となっている
- さらに県内では水泳競技経験者が顧問の例はない

(吉田 2009)

この現状で誰が部活を指導するのか？

## 中学校の紹介

- 部員数 男子15名 女子3名
- 練習回数 週3回～週5回
- 練習時間 1時間～1時間半
- 練習参加人数 4人～10人
- スイミングクラブに通っている生徒 3人

## 一般水泳部員の競技レベル

- 日本水泳連盟が定めている資格級1級を充たしている生徒が1人もいない  
(全国中学出場のためには資格級が9級以上は必要である)
- 4泳法を泳げない部員が存在する
- 50Mを泳ぎきれない部員がいる

## 競技成績の比較 2000年度と2008年度

2000年度 (スイミングクラブ有)	2008年度 (スイミングクラブ無)
<ul style="list-style-type: none"> <li>県中学総体                             <ul style="list-style-type: none"> <li>男子総合優勝</li> <li>女子総合3位</li> </ul> </li> <li>四国総体 5人出場</li> <li>スイミングの選手 10人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県中学総体                             <ul style="list-style-type: none"> <li>男子総合4位</li> <li>女子総合4位</li> </ul> </li> <li>四国総体 2人出場</li> <li>スイミングの選手 3人</li> </ul>

## 問題点

- 顧問に水泳を教える知識がない
- 鳴門市内のプールが減少
- 部員数の減少
- 競技力の高い部員の練習不参加
- 部員全員の知識不足
- 顧問不在時の安全管理上のプールの開放
- 部員の塾などによる練習時間の確保

外部指導者となりこの短期間で感じたことは

- 人(指導者・部員)
- 知識(水中動作・練習の組み立て)
- 施設(冬場でも泳げる施設)
- 時間(十分な練習時間の確保)

この4つが不足していることで競技成績が低下の原因と考える

## 知識不足

技術面

- 4泳法の指導
- 飛び込み
- ターン

練習メニューの組み立て

- 水中練習
- 補強, 筋力トレーニング

## 良い点

- プールの環境  
50Mプール  
練習道具の数
- 生徒一人一人にやる気がある
- 顧問のプール管理

## まとめ

改善するために

- スイミングクラブとの連携
- 部活の合同練習
- 外部指導者の増員
- 顧問同士の勉強会
- 雑誌やインターネットの活用

この項目で知識の補いができると思います